

新婚サルタントのお仕事

Work of a Newly-married Consultant

本橋 あずさ (もとはし あずさ)

パシフィックコンサルタンツ(株) 環境創造事業本部 地盤技術部

1. はじめに

私は建設コンサルタントであるパシフィックコンサルタンツ株式会社（以下、パシコン）に入社し5年目になります。会社では、地盤技術者として日々難解な地盤の問題に取り組み、プライベートでは結婚して1年程度の新婚です。そのため新婚サルタントとして、家庭を第一に考えつつも、仕事も頑張っています。心の配分としては、家庭 40%，仕事 40%，余裕 20%が理想ですが、余裕を上手く捻出できず、常に家庭と仕事で 100%フル回転で生活しています。今年も年度末をなんとか無事に乗り越えることができました。

年度末で余裕のない精神状態では、私の中に天使と悪魔が出現します。「近い将来、妊娠・出産を経て、今のままでやっていけるわけがない」と悪魔が囁く日もあれば、「会社だって制度面でのフォローとかしてくれるし、頑張っていれば大丈夫だよ！」と天使が励ましてくれる日もあります。

こんな天使と悪魔を抱えながら仕事をしている、または就職活動をしている女性は少なくないのではないのでしょうか。

本稿では、私の仕事とパシコンのダイバーシティへの取り組み等について紹介します。

2. 私の仕事

2.1 コンサルタントを志願したきっかけ

私は、学生時代に中越地震、中越沖地震、岩手宮城内陸地震を経験しました。大学院で地盤工学を学んでいた研究室では、地震のたびに被災調査を行い、即 HP で配信する先生の姿を見てきました。私もその手伝いをしながら、地震時にいち早く現場へ駆けつけ、被災要因や復旧計画等の策定に自分の力を注ぎたいと思うようになりました。それが、コンサルタントを志願したきっかけです。

2.2 私の仕事

そんな大学院生活の修了間際、東北地方太平洋沖地震が起きました。入社して最初の仕事が仙台市の宅地被災調査・復旧対策工の設計でした。

仙台市では約 160 地区（被害程度「中程度」以上の宅地数が約 2,500 宅地）が滑動崩落の被害を受けてしまいました（写真-1、2 参照）。被災宅地数が非常に多い、

滑動崩落に対する復旧マニュアルが無い、といった問題に対し、コンサルタントとして効率的・効果的な復旧対策工の基本方針の策定に取り組みました。

現在は、東北地方太平洋沖地震の被害や復旧対策工事の経験を踏まえた、発災から復旧工事までのマニュアルや未然防止のためのマニュアル作成を業務としています。

待たなしの業務で非常に過酷な場面もありますが、学生時代からの希望でもあった復旧・復興活動に、微力ながら携わることができ、やりがいが大きく、自分に与えていただいた機会に感謝しながら仕事をがんばっています。



写真-1 地震発生直後の被害状況（のり面および擁壁の崩壊）



写真-2 復旧工事完了後（現場打ちのり枠工およびグラウンドアンカー工）

2.3 私の一日

コンサルタントと言えば長時間労働が問題視されており、パシコンも例外ではありません。ただし、長時間労働対策として、「朝メール」や「No 残業 Day」など、様々な取組みをしているので、その紹介も兼ねて、私の1日を示したいと思います（図-2 参照）。

<補足説明>

「朝メール」: 今日1日の仕事の段取りを、朝メールとして室員で共有します。その中で目標退社時間を宣言し、周りへ「帰る」アピールをします。また、今月の残業時間を載せることで、忙しさを共有できます（図-1 参照）。

室員の皆様

本橋です。おはようございます！
本日の予定をお送りします。

◆本日の予定

- ・解析データチェック&打合わせ資料作成
- ・構造部との打合せ
- ・国交省技術検討委員会

◆残業管理

今月の残業時間：15h、 目標退社時間：17時（直帰します）

◆外出・お休み予定

- ・金曜日は代休いただきます。

図-1 朝メールの例

「No 残業 Day」: 毎週水曜日は No 残業 Day として 17 時退社を促されます。

9:00 出社・朝メール

朝メールを室の全員に配信します。

9:30 解析データ確認&打合せ資料作成

昨晚流しておいた解析結果を確認。予想していた現象を上手く再現できませんでした！問題点を洗い出し、社内打合せにむけた資料を作成します。

**12:00 お昼休み**

部門の女性スタッフでランチ会。
お天気の良い日は公園ランチ。

**13:00 社内打合せ**

午前中にまとめた解析で、地盤と構造物の相互作用について解決できない問題が発生！構造部に駆け込みブレインストーミング。無事に問題解決。分からないことが発生しても、誰かが必ず解決してくれる。そんな会社です。

**15:00 国交省技術検討委員会**

国交省の委員会に出席。私は事務局として、委員会運営と検討してきたマニュアルの説明を行います。

著名な先生方を目の前に、自分の作成した資料を説明するのはとても緊張します！

**17:00 直帰**

一日の仕事も終了。今日はNo残業DAYの日。会社には戻らず、直帰します。

早く帰ってご飯の支度。わが家は早く帰った方が夕飯の支度をするのがルール。こんなに早く帰れる日は3日分くらいをまとめて作り置き！



図-2 新婚サルタントの1日

3. ダイバーシティの必要性

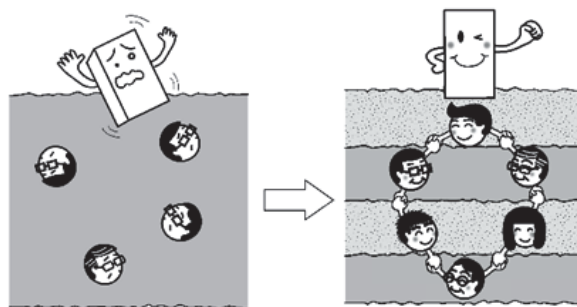
ダイバーシティとはひと言で「多様性」です。

多様な「違い」を持った人材を受け入れ、尊重し、働きやすい環境を整備し、競争力を高める取り組みです。

最近、新聞等で「粘土層管理職」という言葉を耳にすることが増えました。私たちのなじみやすい言葉が使われているので、その流れでダイバーシティの必要性を表現すると、例えばこんなことではないでしょうか？砂質土層のみで構成されている地盤では液状化が懸念され、粘性土層のみで構成されている地盤では圧密沈下が懸念され、健全な建物が建てられません。

一方、砂質土・粘性土と交互に堆積する場合、液状化懸念層が減り、液状化による建物の被害の心配がなくなります。また、砂質土と粘性土の距離が近くなることで、圧密沈下が早く収束し、建物を建てるできるようになります。さらに、圧密が進むことで粘性土の強度は増加します。図-3 にイメージを示します。

会社や業界も同じで、同じような人を求め・評価するのではなく、管理職・一般職、男性・女性、国籍、ゼネコン・コンサル・事業者・メーカーなど様々な「違い」を認め、尊重し、互いに交わることで、強くなる。これがダイバーシティの必要性だと考えます。



粘性土層のみ構成された地盤⇒圧密沈下が心配・・

砂質土層と粘性土層の互層⇒建物の健全性が保たれる！

図-3 ダイバーシティの必要性 (イメージ)

4. ダイバーシティの取り組み

パソコンのダイバーシティの取り組みのひとつとして、去年開催した、ダイバーシティフォーラムについて紹介します。ダイバーシティフォーラムでは、弊社のグループ会社も含め約80人の女性社員が集い、先輩女性社員や部下に女性社員をもつ上司の講演等の他、キャリアデザインに関するワークショップを行いました。

その企画の中で、私は上司へ手紙を書きました。自分の強み、弱み、今後についての希望や不安など自分の思いをたくさん籠めました。そうすると、なんと、上司も事前に手紙を書いてくれており、フォーラムの最後にその手紙をサプライズで受け取りました。

中身を見ると、上司も私の今後について同じように考えていてくれることに気がきました。いつも一緒に仕事をしている上司が、私の今後に期待し、私の負担や不安を気遣い、応援してくれていることを知り、仕事を頑張って続けていくことに勇気をもらえました。

私は、このまま続けて良いんだ！もっと成長して期待に応えたい！と思えるようになりました。これこそ、私が実際に体感したダイバーシティの必要性で、今となっては悪魔の出現頻度もだいぶ低くなってきたと思います。

5. ダイバーシティの先にあるもの

「みんなちがって みんないい ちがいを力に社会の先へ」これがパソコンのダイバーシティのスローガンです。「結婚したら、子供ができたなら、今のように、上司のように働けない」という不安があっても、会社のトップがこのようなスローガンを掲げてくれると、少しホッとしますよね。

ダイバーシティの先には、

- ・ みんながちがいを尊重し合い、それを強みとして事業の展開力を高め合っている。
- ・ みんなが能力や貢献度に応じて適切に評価され、いきいきと自分らしく働いている
- ・ みんなが会社や業界のビジョンと自身のキャリアデザインを熱く語る事ができている

そんな未来が待っているのではないのでしょうか。

(原稿受理 2015. 3. 30)